

2019年度(2020年3月期) 第3四半期決算説明会



2020年2月17日

大正製薬ホールディングス株式会社

取締役 上原 健



決算発表延期について

- ・ ベトナムのDHG(ハウザン)社における売掛金残高等の精査を実施
 - DHG(ハウザン)社の一部売掛金の回収可能性に疑義が生じたため、
範囲を拡大してDHG(ハウザン)社全体の売掛金残高の实在性確認
等を実施した事により時間を要した
 - 結果としては、3Q末で売掛金が1億円程度過大であったことが判明し
たが、財務諸表への影響は軽微であったことが確認された



2019年度第3四半期決算：概要

(億円)

	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年同期比 増減	
売上高	1,999	2,113	+114	+5.7%
セルフメディケーション	1,378	1,578	+200	+14.5%
医薬	621	535	-86	-13.8%
営業利益	281	176	-105	-37.5%
経常利益	362	210	-152	-42.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	514	179	-335	-65.1%

注：金額は億円未満四捨五入



2019年度第3四半期：各事業の売上概要

【SM国内】 1,130億円（前年同期比 +9億円, +0.8%）

- 全体として前年増となった
- パブロン、ビオフェルミン、通信販売事業が伸長

【SM海外】 423億円（前年同期比 +190億円, +81.3%）

- 連結化したDHG（ハウザン）社の売上が2Qより、UPSA社の売上が3Qより計上したことによる前年増
- 既存事業も前年増

【医薬】 535億円（前年同期比 -86億円, -13.8%）

- 富山化学品分が減少
- 育成品は伸長



2019年度第3四半期：SM国内 売上高

- ・上期の天候影響等を受けリポビタンが減少、パブロンが増加
- ・リアップは増税前の駆け込み需要があり、増税後に一時的な反動減あり

(億円)

	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年同期比増減	
リポビタンシリーズ	418	407	-11	-2.6%
パブロンシリーズ	208	221	+13	+6.4%
リアップシリーズ	118	118	0	+0.4%
ビオフェルミンシリーズ	78	83	+4	+5.7%
ヴィックスシリーズ	31	32	+1	+3.0%

注：金額は億円未満四捨五入

<ご参考：市場の状況>

国内OTC医薬品市場：前年同期比(4～12月)+0.5%
(インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース)



2019年度第3四半期：SM海外 売上高

- ・DHG(ハウザン)社、UPSA社の連結に伴い前年増
- ・既存事業においても前年増

(億円)

	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年同期比 増減	
SM海外	233	423	+190	+81.3%
アジア	207	301	+94	+45.2%
欧米	14	113	+98	-

注：金額は億円未満四捨五入



2019年度第3四半期：医薬 売上高

- ・概ね計画通り
- ・ジェニナックは送品のタイミングによる増加も含む

(億円)

	2018年度 3Q	2019年度 3Q	前年同期比増減	
エディロール	198	209	+12	+6.0%
ボンビバ	48	51	+3	+6.2%
ルセフィ	40	51	+11	+26.5%
ロコア	26	30	+4	+14.6%
ジェニナック	26	34	+8	+29.6%

注：金額は億円未満四捨五入

<ご参考：市場の状況（前年同期比）>

医療用医薬品市場 +3.8%
 ・SGLT2阻害剤市場 +20.0%
 ・抗菌薬市場 -10.7%

・骨粗鬆症及関連疾患用
 ビスホスホネート市場 -10.1%
 ・ビタミンD₃市場 +7.2%



2019年度第3四半期：売上高・利益増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (+114億円)	セルフメディケーション事業 (+200億円)	医薬事業 (-86億円)
営業利益 (-105億円)	売上総利益* +35億円 (売上総利益率* 前期65.4% → 当期63.6%)	
	販管費 +141億円	
	(内訳)	(要因)
	研究開発費 +20億円	TS-152開発費用、契約一時金
	広告宣伝費 +42億円	ラグビーW杯、新製品
	販売促進費 +5億円	
	人件費 -19億円	早期退職の影響
その他 +92億円	M&A関連費用	

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入



2019年度：通期業績予想

・通期業績予想の修正：有

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
売上高	2,905	+289	+11.1%	2,935	-30
セルフメディケーション	2,225	+424	+23.5%	2,255	-30
医薬	680	-134	-16.5%	680	-
営業利益	215	-97	-31.1%	330	-115
経常利益	260	-149	-36.4%	370	-110
親会社株主に帰属する 当期純利益	210	-276	-56.8%	295	-85
1株当たり当期純利益(円)	263.13	-	-	369.64	-

注：金額は億円未満四捨五入

*2019年7月29日時点の予想との比較



2019年度:通期業績予想の修正要因

(億円)

売上高

修正額		主な要因
売上高 (-30)	海外 (-31)	UPSA社商流変更に伴う在庫調整等 委託販売への移行(コンサインメント契約) 他

営業利益

修正額		主な要因
営業利益 (-115)	粗利 (-82)	売上修正に伴う減少等 (-15) 在庫ステップアップ (-38) UPSA社統合プロセスにおける影響 (-24)
	販管費 (+33)	【広告宣伝費】新製品、スポーツ協賛 等 (+17) 【販売促進費】連結子会社における費目の変更 等 (-16) 【その他】 M&A一時費用 等 (+37)



2019年度：通期業績予想における一時的要因

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減	
			内 一時的要因(概算)
売上高	2,905	+289	
売上原価	1,087	+173	+50 在庫ステップアップ UPSA商流変更に伴う増加
売上総利益	1,818	+116	
販管費	1,603	+213	+70 M&A関連費用 ラグビー等
営業利益	215	-97	
一時的費用 計			+120

注：金額は億円未満四捨五入



2019年度:SM国内 通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
SM国内	1,505	+45	+3.1%	1,505	-
リポビタミンシリーズ	521	0	0.0%	527	-7
パブロンシリーズ	303	+14	+4.9%	291	+12
リアップシリーズ	155	+2	+1.2%	153	+2
ビオフェルミンシリーズ	108	+6	+5.7%	106	+2
ヴィックスシリーズ	41	+1	+3.1%	41	0

注:金額は億円未満四捨五入

*2019年7月29日時点の予想との比較



2019年度：SM海外 通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
SM海外	692	+383	+124.2%	723	-31
アジア	425	+149	+53.9%	429	-4
欧米	255	+236	-	282	-27

注：金額は億円未満四捨五入

*2019年7月29日時点の予想との比較



2019年度：医薬 通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
医薬	680	-134	-16.5%	680	-
エディロール	277	+15	+5.7%	277	-
ボンビバ	68	+4	+6.5%	68	-
ルセフィ	67	+11	+19.3%	67	-
ロコア	39	+4	+12.1%	39	-
ジェニナック	33	-2	-5.9%	33	-

注：金額は億円未満四捨五入

*2019年7月29日時点の予想との比較



2019年度通期予想：売上高・利益増減

(前年同期比増減額)

売上高 (+289億円)	セルフメディケーション事業 (+424億円)	医薬事業 (-134億円)
営業利益 (-97億円)	売上総利益* +116億円 (売上総利益率* 前期65.1% → 当期62.6%)	
	販管費 +213億円	
	(内訳)	
	研究開発費	+18億円
	広告宣伝費	+56億円
	販売促進費	+11億円
	人件費	-6億円
その他	+135億円	

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2020年2月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	国内／海外
フェーズ3			
TS-152 (注射)	抗TNF α 抗体 関節リウマチ	自社	国内
フェーズ2			
TS-142 (経口)	不眠症	自社	国内
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



大正製薬開発品：フェーズ1

(2020年2月14日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-134 (経口)	統合失調症	自社	海外
TS-161 (経口)	うつ病	自社	海外